

フードドライブで支え合い

JA長野中央会をはじめとしたJA長野県グループは4日、各家庭で余った食料品などを持ち寄るフードバンクを実施します。本年の「国際協同組合年（IYC2025）」に合わせ、グループが加わる長野県協同組合連絡会が進める「フードドライブ一斉アクション」の一環。昨今の物価高に頭を痛める世帯への支援や食品ロスの削減を図ることで、協同組合の社会的意義をアピールします。

4日 食品ロス削減も訴え

厚生労働省の国民生活基礎調査によると、生活を支える最低限の収入とされる貧困線は2021年で127万円（年収）。この額に届かない人の割合を示す相対的貧困率は15.4%で、米国（15.2%）、

韓国（14.8%）を上回り、先進国中で最悪でした。さらに問題なのは子どもの相対的貧困率で、11.5%は全世帯の数字より低いものの、子どもがいる世帯で大人が一人だけの「ひとり親世帯」

***2025国際協同組合年**
国際社会の関心を高め、取り組みを促すため国連が定める「国際年」の一つ。2012年に続いて2回目。持続可能な開発目標の実現に向けた協同組合の貢献を高く評価し、協同組合の振興を求めています。



国際協同組合年

だと44.5%と、大人が二人以上いる世帯の8.6%を大きく上回っていることです。ひとり親世帯の経済的苦境が浮き彫りになっています。



JA佐久浅間	総務組合員課にて随時受け付け
JA信州うえだ	7月4日まで金融店舗に受付を設置
JA信州諏訪	役職員を対象に6月30日～7月4日の期間で募集
JA上伊那	6月30日から各支所における集会等の参加者より募集
JAみなみ信州	7月4日に向けて各支所の女性部や役職員から募集
JA木曽	7月1～7日に組合員や地域住民から各支所・店舗の営業時間内の窓口で募集
JA大北	7月4日に向けて各支所で募集
JAグリーン長野	7月1日まで組合員、女性部、地域住民から各支所の窓口で募集
JAながの	7月4日まで各支所で組合員や地域住民から募集

直近でフードドライブに
取り組むJA

集まった食品は、それぞれ地元の社会福祉協議会をはじめとした支援団体などを通して食料確保に悩む人々に届けられます。二つの団体を訪ねました。

5月下旬の日曜日、松本駅前記念公園（松本市）では曇天の下、「信州子ども食堂inまつもとまなび塾」が開かれました。午前11時半の食料配布を前に高齢者を中心にずらりと長い列が。子どもは無料、大人は300円で用意した弁当や、米、牛乳などを手に入れることができます。この日は地元農家から提供された採れたてのレタスも山積みで並んでいました。

NPOホットライン信州が「共に食事を楽しもう」と子ども食堂を始めたのは2016年1月。それから9年を経た今では、週末を中心に一年間で食料約200ト、信州子ども食堂ネットワークの計200カ所（約9万人）をサポートしています。

NPOホットライン信州

小学生のいる家庭へ直接支援も



地元農家から当日朝採れのレタスも並ぶ

件として「小学生のいる家庭」に向け、ノートや鉛筆など文房具のセットも入れています。「このプロジェクトのそもそものきっかけは、コロナで同士の接触が制限されたことです。2020年からの5年間の取り組みではつぎとしたのは、食事にも事欠く家庭が多いんです」と続けます。

ある深刻さです」と副理事長でもある美谷島越子事務局長。「遠慮がちに『今年はないんですか』と尋ねる方もいて、続けることにしました」同プロジェクトの応募には審査がないため、「必要ない人もいるのでは」と疑問を持つ方もいるでしょう」と美谷島さん。「でも、困ってもないのに申し込む人はいます。親戚付き合いもできず、訴える先がなくて悩んでいる子育て世帯が多いんです」と続けます。

昨年度、同バンクがフードドライブや企業、団体、個人から受け入れた食料は69.7ト。このうち24.8トが「小学生のいる家庭」限定で直接支援する同プロジェクトに回りました。支援件数は延べ1300件です。本年度は4、5月に続いて今月も実施します。申し込みは同バンクホームページ（下記QRコード）から。



弁当や食料の配布に長い列



地元農家から当日朝採れのレタスも並ぶ

会場によって事情はさまざまですが、コロナ禍を経て様子は大きく変わったと青木正照専務理事。「コロナで」集まって食べることが難しくなり、弁当にして配ることにしました。すると、集まる人が50人、100人、150人…と、見る間に増えました。そこまで増えると、集まっ

たところで調理して食卓を囲むといった、それまでの子ども食堂の運営は難しくなりました。コロナ禍が明けた今、人が集まることに抵抗がなくなった上、このところの物価高騰で集まる人数が急増。「場所によっては200人、300人と増え続けています」と青木さん。子ども食堂というより食料品を配るフードパントリー的な内容になっていると打ち明けます。

気がかりなのは子育て中の家庭です。乳幼児連れでは会場に足を運ぶことさえ難しいと考えられ、支援が届かないことを青木さんは懸念。食料の宅配にも力を入れています。



私たちの国で消費するたべものは
できるだけこの国で生産する
国産消費国産にJAグループは
取り組んでいます



食と農で地域に笑顔をつくります
組合員・地域とともに食と農を支える協同の力の発揮

おはようございます

JA信州諏訪 営農部 富士見町営農センター
営農指導係 小林 基隼



4月に入組し、現在は主に生産者から集荷所に持ち込まれた野菜の荷受けと、各市場への出荷作業を担当しています。ミスを起こさないよう、責任を持って業務に当たっています。先輩方と圃場を見て回ったり、休日は自宅の畑や田んぼについて家族と話したりして、おいしくて安全な野菜を多くの人に届けられるよう日々勉強中です。いち早く地域に貢献できる職員を目指して頑張ります！

健康Q & A

高校生の腰椎分離症

Q 高校でテニス部に所属しています。練習が多くなってから腰痛が出てきました。開業医で腰椎分離症と診断されました。若いのに手術をしなければいけないのでしょうか？
(17歳、女性)

A 腰椎分離症は、主にスポーツをする若年層に発症しやすい疾患です。腰椎の後方部分の疲労骨折です。骨の成熟が十分でない時期に強い運動を続け、腰椎に繰り返し負荷がかかることで生じるとされています。

腰椎分離症は早期発見と適切な治療が重要です。初期では、MRI撮影で骨の浮腫や骨髄内の出血を確認し、分離症の兆候を見つけることができます。コルセットの着用と運動制限で骨の修復（分離部の癒合）が可能です。しかし分離の発見時期が遅いと、骨が癒合しない状態になります。この時期を末期と表現しますが、検査で分離した腰椎の不安定性がないことや分離部の炎症がなければ、急いで手術をする必要はありません。

分離症の治療のポイントは、柔軟性を高め筋力トレーニングを行うことで体の使い方を改善することです。腰を過度に動かさずに上半身を効果的に使うトレーニングで痛みを軽減し、スポーツへの復帰を目指すことができます。分離の末期でも、炎症を抑える薬の使用や適切な装具の着用によって、痛みを管理しながら運動を続けることが可能です。

スポーツをする若者で腰痛が2週間以上続く場合、早めに専門医の診察を受けることをお勧めします。

(JA長野厚生連長野松代総合病院
整形外科統括部長 北原淳)

お知らせボード

★第64回農村医学夏季大学講座

18、19日、佐久市臼田のJA長野厚生連佐久総合病院農村保健教育ホールで。Zoomでの同時配信も。18日(金)は若月賞授賞式と受賞講演(清澤研道信州大学名誉教授「日本におけるC型肝炎の特徴」など)。19日(土)はシンポジウム「災害に強い地域と医療」ほか。受講料は2日通しで3000円(学生1000円、高校生以下無料)。詳細・申し込みは同病院ホームページ(https://sakuhp.or.jp/)で。☎同病院内の事務局☎0267・82・2677

